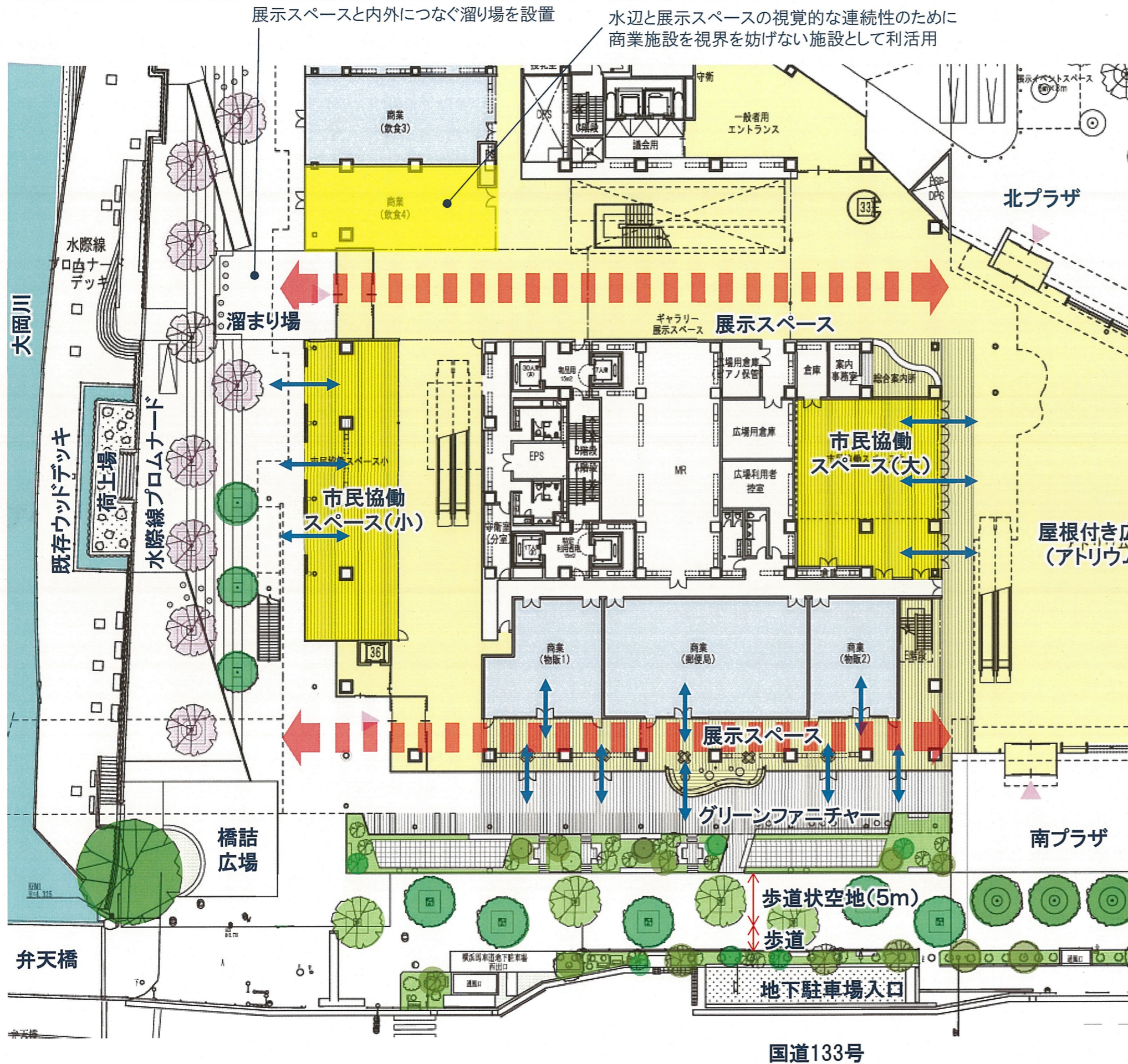
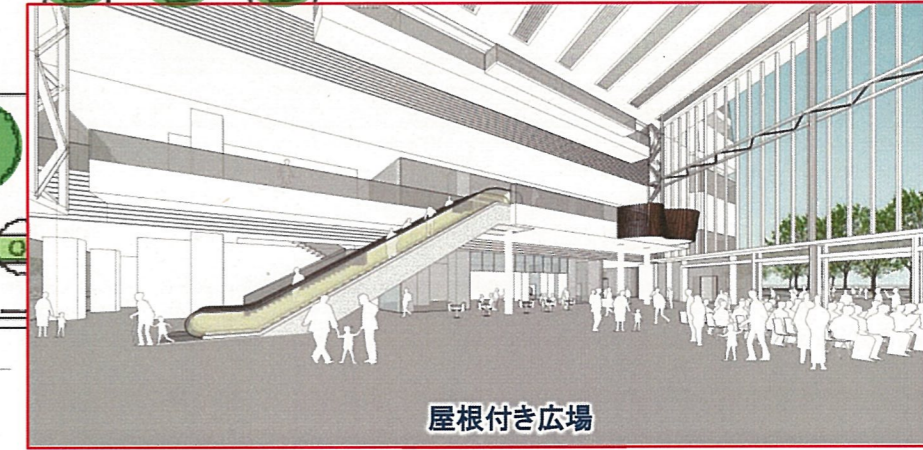
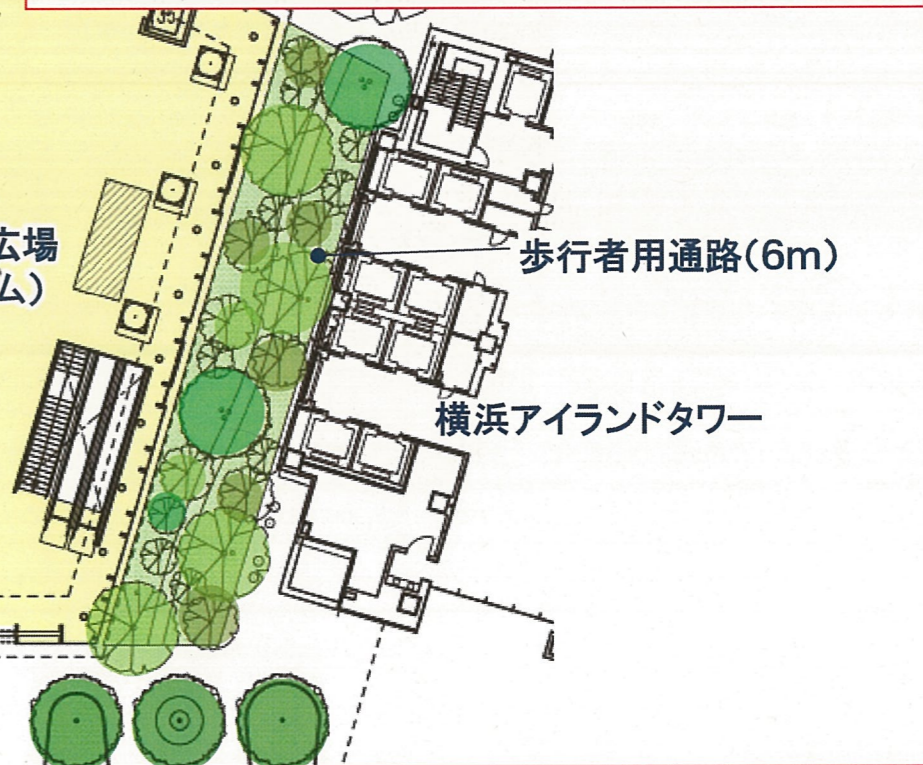
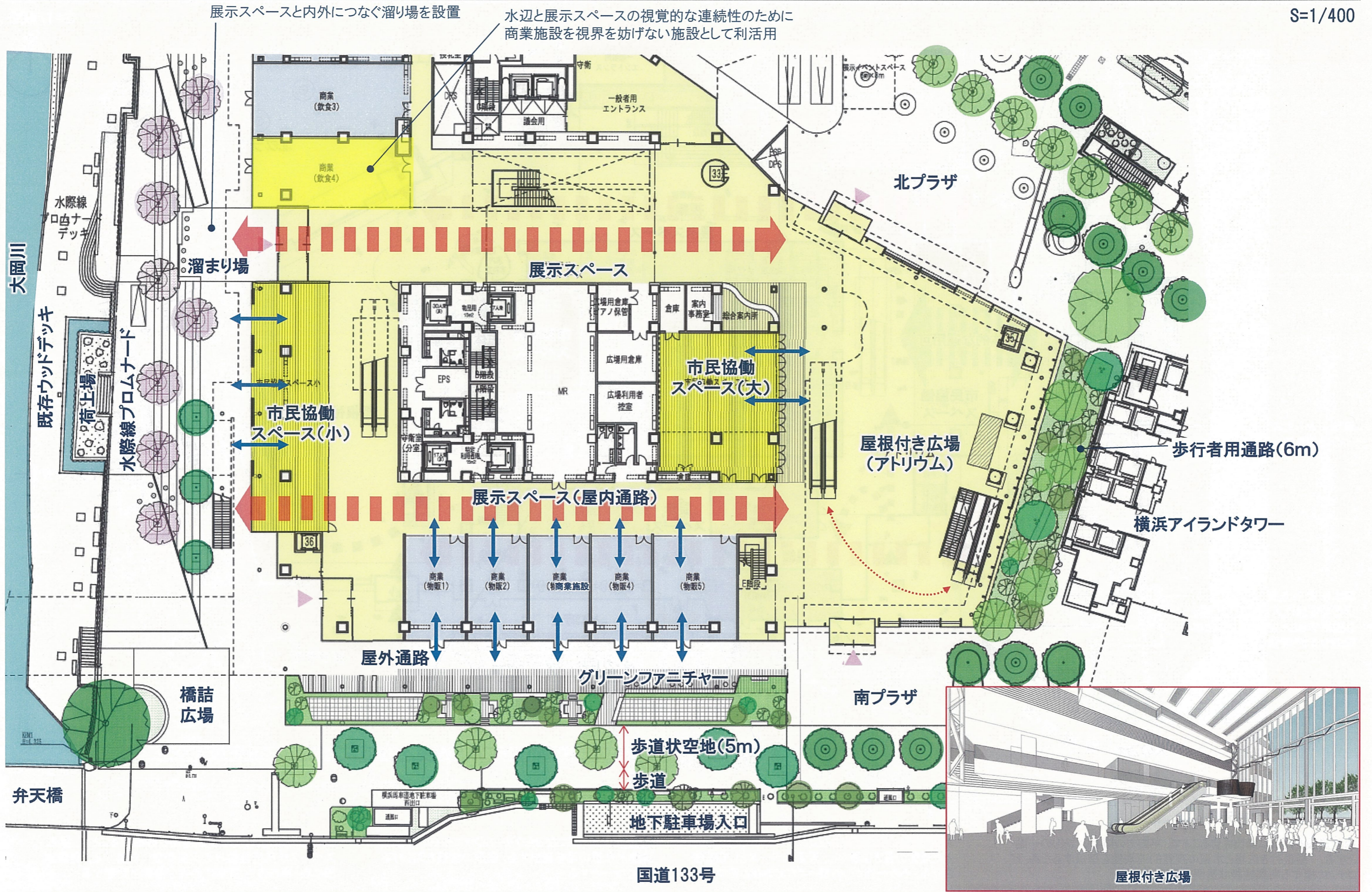


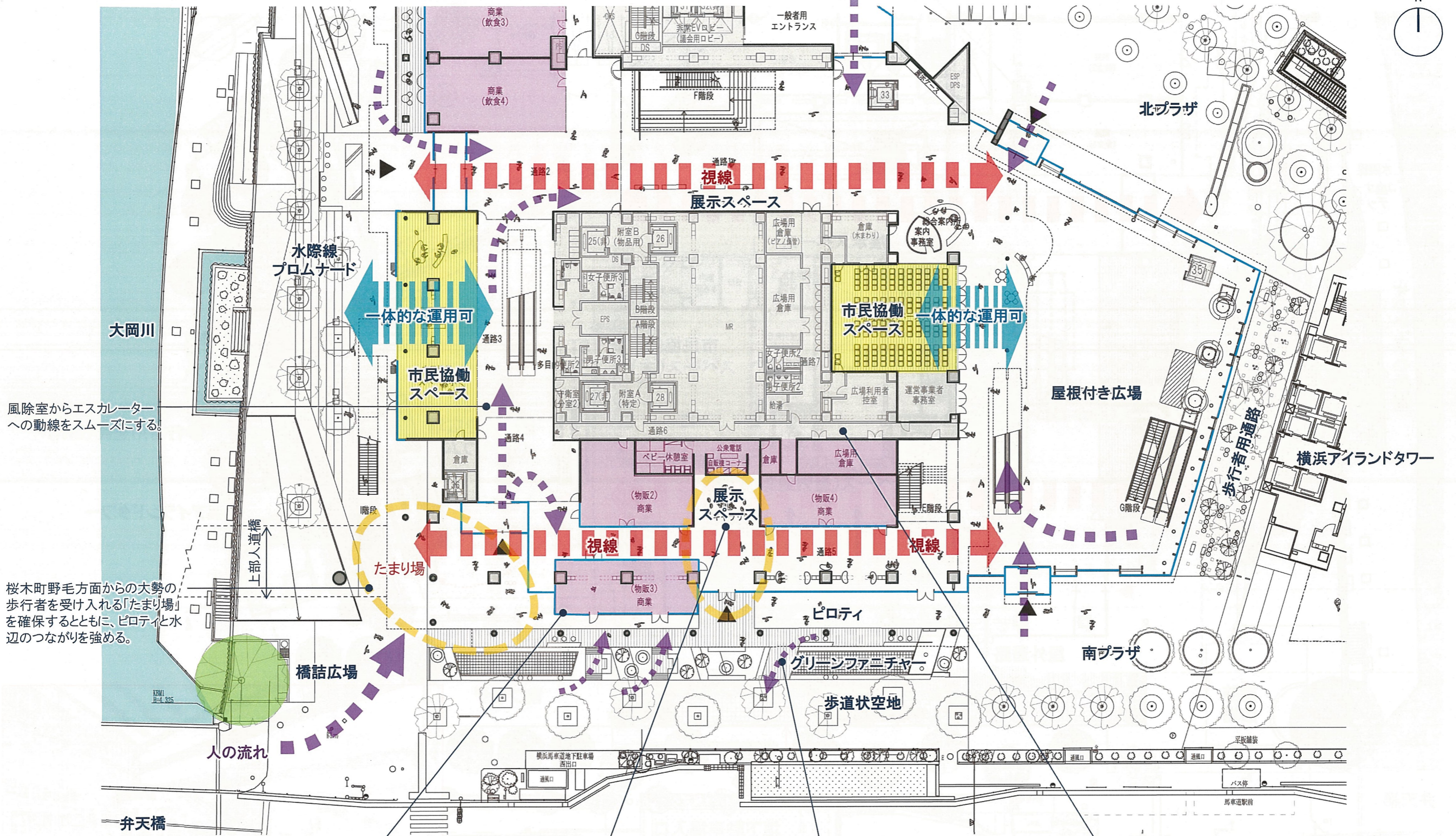
1階南側商業施設について



- 国道側の賑わい**
 → 店舗をコア側に寄せてサービス動線を設け、外壁面との間に屋内通路(展示スペース)を確保する。床仕上げを内外とも木デッキにそろえることで、内外一体利用を促す。国道と外壁面の間には、グリーンファニチャーと称するテーブルやツールを備えた緩衝地帯を設えることで、賑わいを創出に寄与する。
- 屋根付き広場(アトリウム)と水辺のつながり**
 → 店舗前の屋内通路(展示スペース)とグリーンファニチャーのゾーンを通して、屋根付き広場と水辺を動線的、視覚的につなぐ。
- 回遊動線**
 → 屋根付き広場と水辺をつなぐ屋内通路(展示スペース)は、内外への連続性を確保するとともに、コア部周囲に十分な幅員をとることで回遊性を高める。







風除室からエスカレーターへの動線をスムーズにする。

桜木町野毛方面からの大勢の歩行者を受け入れる「たまり場」を確保するとともに、ピロティと水辺のつながりを強める。

商業施設を外部に露出させることで、平時での賑わいづくりの一助とする。屋根付き広場と水辺の視覚的連続性を確保するため、ピロティに接する商業施設は透明な作りとする。

商業施設はコア側配置とし、アルコーブを設けることで壁面の長さを増やし、展示スペースとして機能させる。その一部が、外部へのにじみ出しをつくる。

緑と家具が一体になったグリーンファニチャーを設け、活動的な緑の場を創出する。国道の喧騒を和らげるバッファーとする。

コアと商業施設の間に避難経路を確保することで、展示スペースは美術館並みの火災荷重に対応する。商業施設に表・裏を作り、裏側に必要な施設を配置する。